

神輿だ わっしよい！

内藤真理子

「うわくん、うわくん」買い物物の途中、地響きのような音がする。

「犬の声かしら？」私が言うと、

「祭りの神輿だよ」、連れが言う。そういえばこの土日で、久我山神社の例大祭があると、駅前には張り出してあった。

音がだんだん近づいてくる。土曜日の夕方、秋晴れの気持ちの良い日だったが、四年ぶりのお神輿だそう。ちょうど住宅街にいたので、見物人は少なかったが、神輿は「わっしよい、わっしよい」と上下に揺れて威勢が良い。

ねじり鉢巻き、背中に文字が書かれた半纏を着て、腰骨の辺りに帯をキリリと締めて決っている。よく見ると、久我山と書かれたものの外に、下高井戸、鳶、他にも何種類かの半纏が入り混じり、方々からの加勢も来ているのだろう。

「明日もお祭り、見ましようね」と私。「もう見たからいいよ」と連れ。住宅街ですれ違っただけなのに……。

日曜日に一人で見た祭りは本格的だった。

人見街道がにぎわっている。私は神輿の最後、大人の担いでいるものの脇から順に前に向かった。足踏みをしながら「ワッセー、ワッセー」と大声を上げている。人並みを縫って前進すると、子供の神輿。可愛い。親たちも周りを取り囲んで弾んでいる。何十年前、我家もこんな風だったと頭をよぎる。

前に進むと、大太鼓。大きな音で「ドンドン、てんてん」と祭りのリズムを刻む。

そしてその前に、立派な「山車」があり、音楽隊が笛太鼓の演奏をしている。

「本格的じゃん！ 立派だわ」と一人で感激していると、

「内藤さん」と肩を叩く人あり。「どうしていらっしやる？」の声は、子供が小学生だったころ仲良くしていたママ友。お久しぶりね、と話はずむ。周りでも若い男の子同士で抱き合っている。懐かしい幼馴染なのだろう。

みんな笑っている。

大人神輿、子供神輿、大太鼓、山車、それを太い縄で引っ張る子供達、小さな子供を連れた親達の長い行列は、駅の前で見物人の大歓声を浴び、足踏みをしながら大きく商店街へとぬたくって行った。